※令和４年度以降入学生用

学校番号	403

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ（文系）	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	最新「数学Ⅱ」　（啓林館出版）						
副教材等	アドバンスα　数学Ⅱ　（啓林館出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

① 問題集用のノートを用意しましょう。
② 問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしましょう。答え合わせは、自分の弱点を知るための大切なものです。
③ 家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。
④ 授業中のノートについては板書を書き写し、また、授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
① 式と照明，複素数と方程式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
② 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第4章　三角関数	第４章　三角関数 第１節　一般角と三角関数 １．一般角 ２．弧度法 ３．一般角の三角関数 ４．三角関数の相互関係 ５．三角関数のグラフ ６．三角関数を含む方程式・不等式	a:一般角を表す動径を図示したり，動径の表す角を $\alpha+360^\circ \times n$ と表したりすることができる。 弧度法の定義を理解し，度数法と弧度法の換算ができる。 扇形の弧の長さと面積を求める際に，中心角が弧度法であることを理解している。 弧度法で表された角の三角関数の値を，三角関数の定義によって求めることができる。 三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な値を求めたり，式変形をしたりすることができる。 三角関数の性質を用いて，一般角の三角関数の値を求めることができる。 いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解している。 三角関数の相互関係を利用して，三角関数を含む 2 次方程式を解くことができる。 b:弧の長さで角を測る方法である弧度法を考察することができる 三角比の定義を，三角関数の定義に一般化して考察することができる。 単位円周上の点の座標を，三角関数を用いて表すことができる。 三角関数の性質を，単位円周上の点の座標によって考察することができる。 単位円周上の点の動きから，三角関数のグラフを考察することができる。 三角関数の性質を，グラフの特徴とともに考察することができる。 三角関数を含む方程式・不等式を解く際に，単位円やグラフを図示して考察することができる。 c:弧度法に興味をもち，角度の換算に取り組もうとする。 新しい角の測り方である弧度法に興味をもち，角度の換算に取り組もうとする。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

		第２節　三角関数の加法定理 １．三角関数の加法定理 ２．２倍角の公式 ３．三角関数の合成	a:加法定理を利用して，種々の三角関数の値を求めることができる。 2 倍角，半角の公式を利用して，三角関数の値を求めることができる。 2 倍角の公式を利用して，三角関数を含むやや複雑な方程式を解くことができる。 三角関数の合成を理解している。 三角関数の合成を利用して，関数の最大値・最小値を求めることができる。 b:2 倍角の公式を利用して，やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。 c:加法定理から，2 倍角の公式，半角の公式を導こうとする。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題
	第１章　式と証明	第１章　式と証明 第１節．整式の乗法・除法と分数式 １．整式の乗法 ２．二項定理 ３．整式の除法 ４．分数式とその計算	a:展開の公式を用いて，3 乗に関わる式を展開することができる。 パスカルの三角形の性質を理解し，パスカルの三角形の作り方がわかる。 二項定理を利用して，展開式やその項の係数を求めることができる。 多項式の割り算の計算方法を理解している。 分数式を分数と同じように約分して扱うことができる。 分数式の加法・減法ができる。 b:数学Ⅰで既習の 2 次式の展開公式を利用して，3 次式の展開公式を導くことができる。 $(a+b)n$の展開式を深く分析し，係数についての法則を推測することができる。 多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。 分数式の計算の結果を，既約分数式または多項式に表すことができる。 分数式を分数と同じように通分して扱うことができる。 c:3 乗に関わる展開の公式を自ら導こうとする。 多項式の割り算の計算方法を理解しようとする態度がある。 分数式を分数と同じように約分ができることを理解し計算しようとする態度がある。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

		第２節　等式・ 不等式の証明 １．恒等式 ２．等式の証明 ３．不等式の証明	a:恒等式となるように，係数を決定することができる。 A=B の証明を，適切な方法で行うことができる。 与えられた条件式の利用方法を考え，等式を証明することができる。 比例式を $=k$ とおいて処理することができる。 実数の大小関係の基本性質を理解している。 不等式 A＞B を証明するには A－B＞0 を示せばよいことを利用して，不等式を証明することができる。 相加平均と相乗平均の大小関係を利用して，不等式を証明することができる。 b:分数式の計算の結果を，既恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 与えられた条件式の利用方法を考え，等式を証明することができる。 不等式の証明で，等号が成り立つ場合について考察できる。 相加平均・相乗平均の証明で等号が成り立つ場合について考察できる。 c:恒等式の係数を決定する際に，係数比較法と数値代入法とを，比較して考察しようとする。 等式の証明を通して，数学の論証に興味・関心をもつ。 不等式の証明を通して，数学の論証に興味・関心をもつ。 相加平均と相乗平均の大小関係の有用性に興味・関心をもつ。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題
	第２章 複素数と方程式	第１節　複素数と ２次方程式 １．複素数 ２．２次方程式 ３．２次方程式の 解と係数の関係 ４．剰余の定理と 因数定理 ５．高次方程式	a:複素数の四則計算ができる。 2 次方程式の解の公式を利用して，2 次方程式を解くことができる。 解と係数の関係を使って，2 次方程式の解の和と積を求めることができる。 解と係数の関係を使って，対称式の値を求めることができる。 2 数を解とする 2 次方程式を作ることができる。 和と積が与えられた 2 数を，2 次方程式を解くことにより求めることができる。 b:素数の表記を理解し，複素数 $a+0i$ を実数 a と同一視できる。 平方根を負の数にまで拡張することができる 2 次方程式の解について，実際に解を求めずに，判別式で解の種類を判別することができることを理解している。 やや複雑な 2 数を解とする 2 次	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

			方程式がどのようなものであるか，解と係数の関係を利用して考察することができる。 c:方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し，考察しようとする。 2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し，2 次方程式の解を考察しようとする。 2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち，問題に取り組もうとする。			
		第２節　因数定理と高次方程式 １．剰余の定理と因数定理 ２．高次方程式	a:因数分解や因数定理を利用して，高次方程式を解くことができる。 高次方程式の 2 重解，3 重解の意味を理解している。 b:高次方程式を１次方程式や２次方程式に帰着させることができる。 c:多項式を１次式で割る計算に興味・関心をもち，具体的な問題に取り組もうとする。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題
２学期	第３章　図形と方程式	第１節　点と直線 １．直線上の点の座標 ２．平面上の点の座標 ３．直線の方程式 ４．２直線の平行・垂直	a:数直線上の 2 点間の距離，内分点，外分点の座標・座標平面上の２点間の距離，線分の内分点，外分点の座標を求めることができる。 与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができる。 2 直線の平行・垂直条件を理解し，それを利用できる。 点と直線の公式を理解し，それを利用して距離を求めることができる。 b:線分の内分点，外分点の公式を統一して捉えようとする。 点の座標を求めるのに，図形の性質を適切に利用できる。 c:数直線上の点に関する公式を利用して，平面上の問題を考察しようとする。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題
		第２節　円 １．円と方程式 ２．円と直線	a:中心の座標と半径から円の方程式を求めることができる。また，円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。 x，y の２次方程式を変形して，その方程式が表す図形を調べることができる。 円の接線の公式を理解し，接線の方程式を求めることができる。 円外の点から引いた接線の方程	定期考査	定期考査 課題提出 ノート	課題提出 ノート ふり返りシート パフォー

※令和４年度以降入学生用

			式を求めることができる。 b:2 点を直径の両端とする円について，中心と半径に着目して，方程式を求めることができる。 円の方程式が x, y の 2 次方程式で表されることを理解し，x，y の 2 次方程式が，常に円を表すとは限らないことを考察・説明できる。 円と直線の共有点の個数を，2 次方程式の実数解の個数から考察することができる。 円と直線の共有点の個数を，中心と直線の距離から考察することができる。 2 つの円の共有点について，2 つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。 c:円の接線を求める様々な方法を理解し，それぞれの関係や，どの方法を用いるかなどを積極的に考察しようとする。		パフォーマンス課題	マンス課題
		第３節　軌跡と領域 １．軌跡 ２．不等式の表す領域	a:軌跡を求めるには，逆についても調べる必要があることを理解している。 軌跡の定義を理解し，与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。 不等式の表す領域を図示することができる 連立不等式の表す領域を図示することができる。 b:平面上の点の軌跡を，座標平面を利用して考察することができる。 点が満たす条件から得られた方程式を，図形として考察することができる。 不等式を満たすx，yの組を，座標平面上の点の集合としてみることができる。 連立不等式を満たすx, yの組を，座標平面上の点の集合としてみることができる。 c:点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 少し複雑な不等式の表す領域についても，興味をもち，取り組もうとする。	定期考査	定期考査 課題提出ノート パフォーマンス課題	課題提出ノート ふり返りシート パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

	第５章　指数関数と対数関数	第１節　指数と指数関数 １.０や負の整数の指数 ２．指数の拡張 ３．指数関数	a:指数が整数の場合の累乗の定義を理解し，累乗の計算や，指数法則を用いた計算をすることができる。 累乗根の定義を理解し，累乗根の計算ができる。 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し，累乗の計算や，指数法則を用いた計算をすることができる。 累乗根を含む計算では，分数の指数を利用して計算することができる。 指数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 底と１の大小に注意して，指数関数を含む不等式を解くことができる。 b:指数が０や負の整数の場合も正の整数の場合と同様の指数法則が成り立つことを理解している。 累乗根をグラフによって考察することができる。 指数法則が成り立つように，指数の範囲を有理数まで拡張していることを理解している。 指数関数の増減によって，大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 c:指数の範囲を正の整数から０や負の整数に拡張する過程に関心をもち，どのように定義すればよいかと調べようとする。 累乗根の性質に興味を示し，具体的に証明しようとする。	定期考査	定期考査 課題提出ノート パフォーマンス課題	課題提出ノート ふり返りシート パフォーマンス課題
		第２節　対数と対数関数 １．対数 ２．対数関数 ３．常用対数	a:指数と対数とを相互に書き換えることができる。 対数の定義を理解し，対数の値を求めることができる。 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 底の変換公式を利用して，log のつかない数に変換できる。 対数関数のグラフの概形，特徴を理解している。底と１の大小に注意して，対数関数を含む不等式を解くことができる。 対数の性質を用いる際に，真数が正であることに着目できる。 正の数を $a\times10n$ の形に表現して，対数の値を求めることができる。 常用対数の定義を理解し，それに基づいて種々の値を求めることができる。 b: 対数 $\log aM$ が $M=pa$ を満たす指数 p を表していることを理解している 対数と指数の関係から，両者のグラフが互いに直線 $y=x$ に関	定期考査	定期考査 課題提出ノート パフォーマンス課題	課題提出ノート ふり返りシート パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

			して対称であるという見方ができる。 対数関数の増減によって，大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 常用対数を利用して，桁数の問題や小数首位の問題を解くことができる。 c: 指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。			
３学期	第６章 微分と積分	第１節　微分係数と導関数 １．平均変化率と微分係数 ２．導関数 ３．接線の方程式	a:平均変化率の定義を理解し，それを求めることができる。 極限値を計算して微分係数を求めるとき，分母の h は 0 でないことを理解している。 数の定義を理解し，それを求めることができる。 定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 導関数の性質を利用して，種々の導関数の計算ができる。 導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 変数がx以外の関数について，導関数を求めることができる。 b:関数の極限値を直感的に理解し，それを求めることができる。 平均変化率における h は負でもよいことを理解している。 導関数を表す種々の記号を理解していて，それらを適切に使って表現することができる。 微分係数の図形的な意味と，直線の方程式の公式から，接線の方程式の公式を考察することができる。 c: 曲線上にない点 C から曲線に接線を引くとき，接点 A における接線が点 C を通ると読み替えることができる。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題
		第２節　導関数の応用 １．関数の値の増加・減少 ２．方程式・不等式への応用	a: 導関数を利用して，関数の増減を調べることができる。 関数の増減を調べるのに，増減表を書いて考察している。 $f'(a)=0$ は$f(a)$が極値であるための必要条件ではあるが，十分条件ではないことを理解している。 関数の極値が与えられたとき，関数を決定することができる。 導関数を利用して，関数の最大値・最小値を求めることができる。 最大・最小の応用問題では，変数のとり方，定義域に注意している。 導関数を利用して，最大値・最小値の応用問題を解くことができる。	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

			導関数を利用して，方程式の実数解の個数，不等式の証明の問題を解くことができる。 b: 関数の増減を接線の傾きから考察することができる 最大値・最小値と極大値・極小値の違いを，明確に意識して考察することができる。 方程式の実数解の個数を，関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。 c: 関数の増減を導関数を用いて調べようとする。 関数の極値を導関数を用いて調べようとする。 身近にある最大値・最小値の問題を，微分法を利用して解決しようとする。 方程式や不等式を関数的視点で捉え，微分法を利用して解決しようとする。			
		第３節　積分 １．不定積分 ２．定積分 ３．面積と定積分	a:不定積分の定義や性質を理解することができる。 不定積分の計算では，積分定数を書き漏らさずに示すことができる。 不定積分の定義や性質を理解し，それを利用する不定積分の計算方法を理解している。 定積分の定義を理解し，それを利用する定積分の計算方法を理解している。 定積分の公式や性質を理解し，それを利用する定積分の計算方法を理解している。 上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 直線や曲線で囲まれた部分の面積を，定積分で表して求めることができる。 b:微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる 微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 定積分は定数であることを理解している。 上端が x である定積分を，x の関数とみなすことができる。 直線や曲線で囲まれた部分の面積を，定積分で表して求めることができる。 3 次関数のグラフと x 軸で囲まれた 2 つの部分の面積の和を求めることができる。 c:積分法が微分法の逆演算であることから，不定積分を求めたり，不定積分の性質が成り立つことを確かめたりしようとする。 面積が定積分で表されることに	定期考査	定期考査 課題提出 ノート パフォーマンス課題	課題提出 ノート ふり返りシート パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

			興味・関心をもち，考察しようとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度